

快挙達成!

七ヶ宿スキークラブのみなさん

1月30日、31日に川崎町のセントメリーズスキー場で、全日本スキー技術選手権大会宮城県予選会が開催されました。大会には七ヶ宿スキークラブから渡部秀文さん(瀬見原出身)、村上智昭さん(関出身)、八島徹也さん(滑津出身)、大場朱莉さん(大崎市)の4名の選手が出場し、男子第1位から第3位まで、女子第1位と上位を独占する快挙を達成しました。この大会は、ゲレンデを大回りや小回りなどで滑り、スキークワサーを競う大会で、渡部さんは大会6連覇を達成しました。4人は3月8日から長野県八方尾根スキー場で開催される全国大会に出場します。



▲左から男子2位村上さん、女子1位大場さん、男子1位渡部さん、男子3位八島さん

に滑りの巧さを競う大会で、女子の部で大滝美子さん(関出身)と森谷敬子さん(高島町)が見事に全国大会出場の切符を手にしました。スノーボードの全国大会は3月4日から新潟県、石打丸山スキー場で開催されます。6名の方々の全国の舞台での活躍を期待します。

地域づくりだより

湯原地区の地域づくりを考える!

講演会を開催

2月12日に、湯原地区元気な地域づくり委員会が主催する講演会が行われました。会場の湯原コミュニティセンターには、地域づくり委員や自治会の役員のほか、地域の住民の方など約30名が参加し開催されました。講師には、山形大学人文学部の村松 真(むらまつ まこと)先生をお迎えしました。演題は「湯原地区の地域づくりを考える」として行われ、「なぜ今地域づくりが必要なのか」、「地域づくりとは何をすることなのか」、「何もしなければ過疎地の集落は消滅してしまう」、「など地域づくりのポイントとなることを熱く語られました。参加した方も「今取り組んでいること、やろうとしていることとの大切さが分かった、納得しました」など、理解を深めていたようでした。今回の講演会をきっかけに湯原地区での地域づくりが少しずつ着実に進んでいくことでしょう。



▲たくさんの参加者で会場はいっぱいになりました

※地域づくり
まずは小さなことから始める→次の展開が見えてくる→もっとよい方法が見えてくる
※地域づくり→池の水を茶碗でくむが如し最初からよい方法は見つからない
茶碗でくむ(きりがいい・もっとよい方法を探す)→バケツでくむ→タイヤでくむ→ポンプでくみ上げる

肝心なことは進化できること(講演会資料から抜粋)

湯小からゆりの里へ

「元気とおもいやりが届けられました」

1月29日、湯原小学校5、6年生がゆりの里を訪ねました。当日は湯小児童が土壌改良から稲刈まで行った学習田で作ったお米(やまのしずく)30kgがゆりの里へ贈呈されました。その後児童による合唱、合奏を披露しました。さらにゆりの里入所者の方々とあやとり、こま回しなどの昔遊びでふれあいました。



▲▶合奏披露・みなさん聞き入っていました



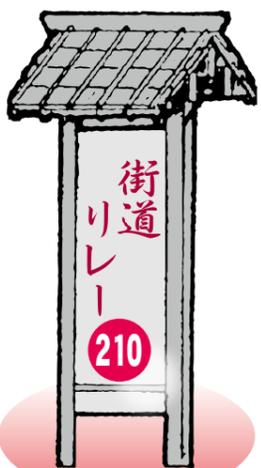
▶やまのしずく贈呈



▲みんなであやとりをしました



▶行事終了後、握手とあいさつを交わしました



すめばみやこ

今年の正月も息子や娘夫婦が東京から帰省してきた。何年と続いている事だが、孫娘たちといっしょに賑やかに新年を迎えることが出来た。

夫婦二人だけの生活も、早いもので十年以上になった。不安でいっぱいの日々だが年に数回帰ってきてくれる子ども達や孫に会うのが何よりの楽しみである。

診療所の送り迎え、冬の除雪など町にはお世話になっており感謝に堪えないが、長年住み慣れた稲子を離れることなど今は考えられない。お互いに老体を労り合いながら少しでも長く暮らしたいものだと思う毎日です。

稲子 大葉 富男 さん



▶こけしに絵付けをする大葉さん。83歳となった今もお父様から受け継いだ技を生かしこけしを作られています。



次回は四年の間稲子地区の安全安心を守り抜いた湯原駐在所長 佐々木信夫さんにリレーされます。